

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3891300059
法人名	有限会社 スローライフ
事業所名	グループホーム まちなか
所在地	四国中央市川之江町字馬場2083番4
自己評価作成日	平成23年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの名称どおり、川之江の“まちなか”に位置し、昔ながらの商店街が近くにあり地域に溶け込めるホームを目指しています。
職員全員がまちなかでの生活を楽しみながら支援することで、利用者が安心して楽しく生活できるような雰囲気作りに努めています。
今後は更なる地域に根ざしたホームでありえるように、積極的に地域参加をしていきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●利用者の友人が訪ねて来てくれた際には、居室や居間でおしゃべりして過ごされている。職員は、写真を撮って差し上げ、居室に飾る等して、時々、話題にされている。又、買い物に出かけた際には知り合いに会うこともあり、立ち話されたりして、職員は利用者の以前の暮らしの様子を知ること多いようだ。
●4月から外出支援に力を入れて取り組んでおられる。「時間になったら出かける」のではなく、利用者の希望等をお聞きしながら、外出先等を決めて、出かけられるように取り組まれている。職員は、利用者が気分転換できるように、積極的に外出の機会を作るよう取り組まれており、最近では、お花のお好きな利用者からのリクエストでバラの花のきれいな公園に外出された。調査訪問時には、職員が買い物にお誘いすると、「私、出かけるの好きよ」とお返事をされているような様子もうかがえた。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

まちなか

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏 名

喜井 茂雅

評価完了日

平成24年5月22日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 理念を共有できやすいように要約を作り入社時に説明し配 布している。	
			(外部評価) 理念に、「尊厳の保持」「自立支援」を掲げて、代表者や主 任は、「自分がされて嫌なことはしない」ことを、「何かにつけ ての基本」として日頃から考えられるよう、職員に話しておら れる。主任は、今後はさらに、すべての利用者が「明るく穏や かに暮らせるような支援」に努力していきたいと話しておられ た。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 自治会には加入している。近所の保育園から園児たちが来 たり、産業祭、地方祭へは参加している。	
			(外部評価) 近くの保育園との交流を継続されており、保育園の年間行 事予定表が居間に掲示されていた。今年度も2ヶ月に1回、 園児が遊びに来てくれる予定となっている。主任は今後、 「お礼の品を利用者と作り、保育園に出かける等して、相互 に交流したい」と話しておられた。この一年、職員の入れ替 わりがあったことで、地元からの職員が増え、地域行事等の 情報が得られたり、職員のネットワークでホーム内の修理等 にも、地元の方がかかわってくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 専門学校の実習生を受け入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			利用者に参加していただくことにより、実際に共有できる機 会としている。	
			(外部評価)	
			職員の入れ替わり等、体制的な理由もあって、会議開催が 遅れがちになっている。5月に開催した会議は、当日、お隣 の方等、近所の方に声をかけて参加いただき、「会議という 固いものでなく、茶話会のような集まりにしてほしい」という ような希望が出された。会議後は、利用者とお話して帰られた 方もあった。	事業所では、今後、「利用者を知ってもらったり、暮らしぶり を見ていただけるような集まりにしたい」と考えておられる。 又、参加いただけるメンバーについても、ご家族や利用者は もとより、「地域を広げて案内したい」と考えておられた。事業 所が目指しておられる「利用者が、地域の中で住まう」ことを 支援するためにも、会議を活かして地域のさらなるネットワ ーク作りに取り組んでいかれてほしい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			認知症高齢者みんなで探そや！ネットワークに参加。市役 所へ申請や届けを提出する機会に利用者の状況などを伝 えるよう努めている。	
			(外部評価)	
			代表者は、市の高齢介護課に出向き、運営や利用者の状況 を報告されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			職員会議で身体拘束の勉強会をしている。申し送りの時に その日のケアを振り返り、気づかないうちに言葉をさえぎった り、気持ちを抑えつけて、利用者の抑圧感を招いていないか 点検している。	
			(外部評価)	
			以前は、「利用者の安全のため」に玄関を施錠していた時期 もあったようだが、現在、玄関は施錠せずに、利用者が自由 に出入りできるようにされており、さらに、玄関先のベンチや 駐車場の一角にある菜園等に日常的に出て過ごせるよう支 援されている。事業所は、「利用者がどうしたいか」という考え 方を大切にされており、利用者にお聞きしながら支援しようと 努力されている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			申し送りや職員会議の時はもちろん、日常的に不適切ケアについての助言を行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			成年後見制度を活用している利用者はいるが、ご家族の判断にお任せしている。積極的に伝えられていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			契約内容については契約書の読み合わせをしている。ご家族等からの質問にはお答えさせていただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			運営推進会議の場がその機会の一つだが、十分に活かしていない。	
			(外部評価)	
			ご家族は、衣替えの時期に、ご本人の衣類や布団を替えるに來られたり、病院受診は基本的にご家族が付き添われ、ご家族が利用者の現況を知る機会にもなっている。毎月ご家族に送付するお手紙は、職員が、利用者について気になったことや変化等を書いたシートを参考にして、法人事務所でお手紙にして送付されている。職員は、ご家族の来訪時、「お時間があつたらお話しませんか」と声をかけて、ご家族とお話する機会作りに取り組まれている。	ご家族の中には、「職員が忙しそう、人手不足だから」と、気になることや意見・要望を言い出すことをためらう方もいるのではないだろうか。ご家族の心情も踏まえて、言い出しやすいような雰囲気やきっかけ作りに、さらなる配慮や工夫を重ねていかれてほしい。又、時には、ご家族も一緒に外出したり、活動するような機会を作り、事業所のケアや取り組みをより知ってもらい、信頼関係を作っていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			運営は、職員が中心になってやっているが利用者中心の運営ができるようにしていきたい。	
			(外部評価)	
			職員は、「利用者に自分のことを覚えていてほしい」という思いから、出勤時や帰る前に、利用者一人ひとりの顔を見ながらあいさつをされている。又、利用者から折り紙を教えてもらったり、食事の味付けをアドバイスしてもらうこともある。職員は、「利用者にほめてもらったり、労ってもらうことがやりがいにつながる」と話しておられた。主任は、職員の定着に向けて、「職員一人ひとりのことをよく知ることに努め、個々の家庭環境等にも配慮して、勤務希望等を聞きながらシフトを検討していきたい」と話しておられた。	現在、新しい職員が多く、主任等も新しくなったことで、事業所では、このきっかけを活かして、「利用者がどうしたいか」という観点から支援できるよう、取り組みたいと考えておられる。又、「職員の気付きを大切にしたい」と考えておられ、今後さらに、現場職員から多くのケアの工夫やアイディアを引き出せるような環境作りに努力していかれてほしい。又、必要に応じて職員がスキルアップできるようサポートする等、職員が一丸となって、やりがいを感じながら日々ケアに取り組めるよう環境整備に取り組んでいかれてほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			代表者が現場にいて状況把握をしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			代表者が日常的にOJTを行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			愛媛県地域密着型サービス協会、日本認知症グループホーム協会に加盟し、また、北海道の施設と姉妹協定を結び職員の交換研修を年1回以上行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			初めは、社会的な利用者さんの側に居場所を確保するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 制度上許される範囲内はあるが、ご家族の意向を尊重し、本人との距離感を調整するような支援を心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 当事業所のサービス内容の説明とともに通院やインフォーマル、フォーマルな他のサービスについての活用を情報提供している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) してもらい、していただく、ではなく「一緒にする」を合言葉に支援していけるよう心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 通院にはできる範囲でご家族にご一緒していただき、季節の変わり目では、衣替えをお願いするというような無理のないところから関わっていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 居室を変えたり、リビングの座席を変えたりは基本的にしない。自室のものは、持ち込みで昔から使っているものを持ってきていただける方には持ってきていただいている。新しいものでも、ご自分のものであると、新しいなじみが生まれる。 (外部評価) 利用者の友人が訪ねて来てくれた際には、居室や居間でおしゃべりして過ごされている。職員は、写真を撮って差し上げ、居室に飾る等して、時々、話題にされている。又、買い物に出かけた際には知り合いに会うこともあり、立ち話されたりして、職員は利用者の以前の暮らしの様子を知ること多いようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が、つなぎ役として間に入ったり、利用者が他の利用者の介護をすることによって新しい形の関係ができたり、するような支援を心掛けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 相談があればフォローしているが、積極的な働きかけまではしていない。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員と利用者が一対一になる機会(入浴、通院など)を活かすよう努めている (外部評価) 職員は利用者に、「何かやりたいことがありますか?」と、お聞きする等して、利用者が、「出かけたいところ」や、「やってみたいこと」を聞くようにされている。又、事業所では、「利用者と一緒にいる」ことを大切に考えておられ、家事等をしながら利用者のできることやお好きなこと、以前の習慣等を知ることによって努めておられる。現在は、職員が知り得た情報は、メモや日々の介護記録に書き留めるようにされている。	事業所は、「一人ひとりに応じたケア」を目指しておられ、又、利用者を最期まで看ることにも取り組む事業所であることから、最期まで利用者主体の暮らしを支えられるよう、今後さらに、いろいろな場面を作り、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでいかれてほしい。又、知り得た情報を支援につなげていけるような仕組み作りも期待される。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者さんには、その時代時代の出来事などの話題に水を向けたり、ご家族が面会に来られた時にお伺いしたりして把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 掃除や洗濯食事作りなどを通して利用者個々の状況把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			介護計画への協力が負担に感じないよう、介護計画の承認をいただく機会を活用して、本人、ご家族の意向を把握し、意向と大きくかけ離れる時以外は、次の計画に意向を反映させるように努めている。	
			(外部評価)	
			職員で話し合い介護計画を立てておられ、6ヶ月ごとに見直しを行っておられる。	利用者の暮らしとケアについて、ご家族とも話し合う機会を作る等、ご家族の気持ちやケアへの要望を介護計画に反映できるよう、取り組まれてはどうだろうか。又、「地域の中で住まう」という観点から、利用者一人ひとりが地域とつながりを持って生活できるよう、介護計画にも工夫を重ねていかれてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			実践と結果は記録できているが、気づきや工夫が十分には書けていない。全員が記録することで共有を図っている。介護計画作成、モニタリングの参考にはなっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			病院にもコンビニでも行ける支援をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			役所や病院、スーパー、美理洋室、新聞屋さん、郵便局、薬局等フォーマル、インフォーマルなサービス無しには、支援ができない。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			長年のかかりつけ医を基本にしている。それぞれの利用者、家族が決めている。	
			(外部評価)	
			利用者、ご家族が納得いくかかりつけ医で診てもらえるように支援されており、ご家族が受診に付き添われている。ご家族の都合によっては職員が同行されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			数字に表れないバイタルサインの見方を勉強している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			入退院には、必ず職員が同伴し利用者の状態について説明と助言を受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			利用者には日常的に話をうかがっている。ご家族の意向は、入所時と、利用者の具合がおもわしくない時など、その都度話をしている。	
			(外部評価)	
			入院時等、利用者の状態に変化があるような時には、ご家族が医療機関と話し合い、今後のことについて決めるようになっている。又、ご家族から、「どこまで介護してくれるか」というような質問があった時には、「事業所でできるケア」について説明をされている。ご家族からの希望に応じて、事業所で看取りを支援されることもあり、最期の1～2日間は、ご本人の枕元で、ご家族と、これまでの思い出話をして過ごされるようだ。葬儀の際には、職員はもちろん利用者も参列してお別れをされている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練など消防署の指導を受けている。運営推進会議では、地域の方々の協力をお願いしている。 (外部評価) 運営推進会議時、11月に行われた市の一斉避難訓練時の打ち合わせ等をされた。今後は、職員が防火管理者の講習を受ける計画もある。今後さらに、職員体制や利用者の状態変化、立地条件等も踏まえながら、災害のいろいろな場面を想定した避難訓練を重ねていかれてほしい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 当たり前のことを当たり前にする。自分がされて嫌なことをしないという理念と照らし合わせながら支援に当たっている。 (外部評価) 主任は、職員のマナーや接遇について力を入れて指導されており、事業所内の掃除、整理、利用者の衣服等の清潔等に日頃から気を付けて取り組まれている。代表者は、「利用者の暮らしやすさ」を大切に考えておられ、時々職員に、「職員のしやすさになっていないか」と、問いかけておられる。調査訪問時、「帰りたい」という気持ちの利用者の方に、職員は否定することなく対応されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の能力に応じて、選択肢を増減するような働きかけを心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その都度本人に確認を取りながら支援するように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 髪や衣類の乱れが無いかを見ながら、声をかけたり直接支 援したり、おしゃれな女性にはお化粧の支援をしたりしてい る。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に準備、食事、片付けをしている。共通体験を通して、 話題にもしながら関係作りにもなるように努めている。 (外部評価) 数日置きに利用者、職員で食材の買い物に出かけて、その 日その日で献立を決めて食事作りをされている。調査訪問 時には、台所に立って職員と一緒に食事の支度をする利用 者の様子もみられた。菜園から利用者がネギを摘んで来ら れ、みそ汁の具に使っておられた。利用者それぞれがご自 分のペースで食事を始められ、中には、配膳されたお汁を 台所の電子レンジでよく温めてから召し上っている利用者も おられた。プラスチックのプレート状の食器や湯のみ等も使 用されている。職員は、個々に用意したお弁当を休憩時間 に食べるようになっている。ご家族からは食事内容等につ いて意見も聞かれるようで、事業所では今後、栄養のバラン ス等も考えた食事作りに取り組みたいと考えておられた。	リーダーは、生活の基本でもある「食事」に注目して、支援の あり方を考えたり、ケアの質を高める取り組みにつなげてい きたいと話しておられた。時には、ご家族も一緒に食事するよ うな機会を作り、食事内容や支援のあり方について意見や要 望をお聞きしてみてもいいだろうか。さらに、利用者の食事 の習慣や好み、こだわり等も探り、利用者一人ひとりが食事を より楽しめるような支援に工夫を重ねていかれてほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 午前と午後お茶の時間を設けたり入浴後や外出から戻っ てきたときなど、機会をとらえて水分摂取を心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 日常の口腔ケアには努めているが、特に総義歯の利用者 に対しては、毎晩義歯洗浄剤に漬けて置き洗いを支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			立位困難な利用者も日中はトイレで排せつできるよう支援している。自立している方を除いて基本的に、日中はリハビリパンツで対応している。	
			(外部評価)	
			職員は、利用者に声をかけたり、誘導して、日中はトイレで排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			個々の排便間隔をチェックし、タイミングやリズムをつかみ、飲食物の工夫、運動、マッサージなどでの対応を心掛けている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			希望やタイミングだけではなく、体調や気分にも配慮しながら何日も入浴していないようなことが無いよう清潔の保持や心地よい入浴の支援に努めている。	
			(外部評価)	
			毎朝9時くらいから夕方まで入浴できるよう準備されており、毎朝、職員が、「入浴予定者」を決め、個々に声かけされている。毎日入浴する方もあり、調査訪問時の昼食後、自室から着替えやおけ等を下げて浴室に向かっている利用者の様子もみられた。車いすを利用されている方も浴槽で温まれるよう支援されており、職員は利用者とは話しながら、ご本人がリラックスして入浴できるよう配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			一人ひとりの様子を見ながら対応するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	
			飲み忘れや誤薬がないよう服薬時には注意深く観察支援するよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
			家事や野菜作りをしている時に賛辞や労いの言葉かけをするよう心掛けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	
			希望を表現できる人については対応するように努めている。	
			(外部評価)	
			4月から外出支援に力を入れて取り組んでおられる。「時間になったら出かける」のではなく、利用者の希望等をお聞きしながら、外出先等を決めて、出かけられるように取り組まれている。職員は、利用者が気分転換できるように、積極的に外出の機会を作ることに取り組まれており、最近では、お花のお好きな利用者からのリクエストでバラの花のきれいな公園に外出された。調査訪問時には、職員が買い物にお誘いすると、「私、出かけるの好きよ」とお返事をされているような様子もうかがえた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	
			外出時には、自分のお金を持ってもらい買い物支払いは自分でしていただくように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	
			十分に組み合わせていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			利用者が庭で花を摘んできて生けてくれている。リビングや、居室に温度計を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			駐車場の一角に菜園があり、利用者の方が野菜作りのアドバイスをしてくださっており、現在はトマトやキュウリが育っている。玄関先に咲くゼラニウムを利用者が居間のテーブルに生けておられた。又、散歩時に道端に咲くお花を摘んで来られ飾られることもある。ベンチや椅子を各所に配して、利用者はお好きな場所で過ごされている。台所の様子が見える場所に設置されている長椅子に座り、食事の支度や片づけの様子を見ている利用者もおられた。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			居室のものは、カーテンまですべて本人の持ち物でご家族と本人に配置もお願いしている。状況により模様替えすることもあるが、その場合も相談しながらできるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			洋服をハンガーにつるしたり、ダンスの中の衣類が分かりやすいように名札を付けたりして、ご自分で衣類を選んだり決めたりできるようにされている居室もあった。又、おむつを使用している利用者のお部屋は、臭いにも気を付けて換気に努めておられた。お誕生日のお祝いの寄せ書きや父親の写真、ご家族の写真を飾っておられる方もいる。調査訪問日の前日にはご家族が来られて、布団を夏用にしてくださっている居室もみられた。	